

八軒幹夫広島市議員インタビュー

先人の知恵、技術、生きる工夫を継承したい

—松井市政の六年をどうみますか。
八軒 一生懸命、頑張っておられると思いますよ。しかし、私とは少し考え方の違う部分がありますね。たとえば市長が盛んに言われる「自助・共助・公助」。これから人口も税収も減つてくれば、行政が簡単に全ての面倒を見ることは出来ないし、それを求めることはおかしい。世界的にも、行政がどこまでの役割を担うべきかという議論は尽きませんが、基本的には皆さん自分のことは自分でやっていただく。その意識を持っていただくことが大事だ。しかし松井市長は共助を大事にと仰る。私は先ず、根幹にそれぞれが自助の精神を強く持つてこそ、共助も成り立つと考えますので、微妙に温度差はある(笑)。

—議員、議会の役割にも変化がありますか。
八軒 広島で原爆が落ち終戦後政治の役割はその復興のため、限られた財源をどう配分するかだった。亡くなった方も傷ついた方もいらつしやる中で、議員の調整能力は必要だった。しかし現代、そして次の世代へ。少子高齢化社会になれば、議員が過去のようには利益配分だけをやっているのはダメ。夢は掲げながらも、現実と理想のギャップを埋めていくことが仕事だと考えています。

また、市政の方向性や社会情勢などの情報は、市民よりも早く知ることが出来ますから、分析して道筋をどうつ

くるのか、またそれを市民に伝えていく責任があります。現実的には、高度成長期やバブル期とは全く事情が違いう中で、市民のコンセンサスを得ながら、これらでは配分を変えた施策の展開が必要になります。かつてのいわゆる「利益代表」のような存在ではあり得ないのです。

—弱者救済を訴えられると誰しも反対はしにくい。本当に救うべき範囲はどこまでなのか。福祉が不条理に膨張してはいませんか。
八軒 私は支援者に対しても、そのあたりは厳しいことを申し上げている。年配の方にも、元氣であるならば「生涯現役」でいてほしいとお願ひしています。先輩方の経験や技術を大切に、生かしていけるような仕組みをつくっていかなければ。

国力は最終的には、人の力ですからね。人口減で国力が低下せざるを得ないからこそ、先輩達のノウハウ、英知をフルに役立てたい。これからは人口減少をAIがカバーするという説もあります。そこで発生した利益は国や庶民には回らない。強力なグローバル企業が吸い上げていくだけでしょ。そうなれば日本は衰退する。

そんな背景を確実に認識した上で、政治家は有権者の批判を恐れることなく、誠意を持って説明し、理解を得ていく努力をしなければなりません。辛いことばかり言っているようですが、国民の多くが勤勉で善意を持ち、

優秀な日本です。「グローバル」に巻き込まれず奪われず、足下の素晴らしさを感じたりと見直せば、必ずよい社会を再興することが出来ますよ。私は嫌われても、それを言い続けています。

—中小企業の技術、あるいは先輩方の「社会をつまぐ生きる知恵」といったものが、うまく伝えられない世の中になっていませんか。
八軒 たとえば宮大工さんの世界では、今はもう法隆寺を建てる技術は残っていないと聞いたことがあります。それで世の中が進歩したと言えるかどうか、疑問を覚えますよ。

—そんな技術を伝承していかなければ、ますます強者の寡占状況が進むことになりませんか。
八軒 行政も政治家も真剣に、考えないとね。昔は社会保障も整っていません。それが充実したのはいいことだけれども、行政・政治としては大昔から変わらず、もっと大事なことがあります。それは命を守ること、即ち治山・治水なんですよ。先人達は、ハード的には完全な対策が出来ない分、様々な知恵を巡らせて命を守ってきたのです。たとえば川であれば、氾濫を起しても水をうまく逃がして、そこには住まないように。今はそんな生きる工夫も、退化しているように感じます。人間の驕りもありますが、もっと謙虚に自然へ対応しなければ。

—広島市の財政も厳しいですね。
八軒 行政の貯金にあたる財政調整基金は、平成二十三年には百三十億ありましたが、今年度末には二十六億になってる予定です。これは災害対応などではなく、社会保障費の膨張によって減らしている。

—近い将来、無くなりませんか。
八軒 ですからもう、無駄なことに一切使えないのですよ。行政は業務の見直しもやっているとは言いますが、なかなか減らせません。しかし老朽化した橋梁の修復や架け替えなど近い将来、大きな資金が必要となる。これは絶対なのです。

近年は大きな自然災害が発生していますが、少人数が暮らす山間部の隅々まで、完全な砂防ダムや河川の堤防を整備することは不可能です。移住を含め、現代のかたちに合った自然との共生を模索しなければ。

また災害等、人の命に危険が迫るような事態に備えて、一定の条件のもとで、私的権利を制限できるように憲法に緊急事態条項を定めることも必要です。政治家は真摯に逃げることなく、それらを訴え、議論していかなければなりません。怒られますけれどね。

—市財政の無駄はどこですか。
八軒 ほとんどですよ(笑)。たとえばドイツ、国の制度としてですが、社会保障など福祉政策を一体にしていて、失業保険と生活保護も一体。必ず職業訓練校に行かなければ給付を受けれられない。身体的に不自由な人でも出来る範囲で、たとえば公道でのゴミ拾いなど労働をさせ、対価を払い、足りないところを給付する。日本の社会保障政策も見直さなければ持ちません。

—ドイツの施策は極めて真つ当だと思えますが、日本では「弱者にゴミ拾いをさせるとは何事か」と騒ぎになり、それに逆らえない風潮があります。いびつなことですね。
八軒 それをやらなければもう無

理なんですよ。稼ぎのある人から巻き上げて分配するような共産主義的な施策では、労働意欲を失わせます。ですから地方議員であっても、国の政策に対しても意見し、議論しなければなりませんね。

—八軒議員は三期目で十二年。市の施策について思うところは。
八軒 予算など議案が出て、十分に検討・審査する時間や判断能力が絶対的に足りないと感じます。議案の全てを完全に理解して判断することは不可能な現実があります。そんな中でも右か左かの決断を迫られる。もつと議会のシステムとして、時間と調査能力を十分に確保する必要があります。十二年間はあるという間でした。

八軒幹夫事務所

〒734-0023 広島市南区東雲本町2丁目4-19

クレスト東雲202

TEL : 082-284-0701 FAX : 082-284-9666

オフィシャルウェブサイト <http://www.8ken.jp>